

# 大 学 史 研 究 通 信

第 85 号 2016 年 4 月 30 日 (土)

大学史研究会

第 85 号の内容 : 会員ニュース・第 38 回大学史研究セミナー参加記・2016 年度会費納入のお願い・会員  
新刊ニュース・退会者の報告・『大学史研究』編集委員会からのお知らせ・事務局からのお知らせ・編集後記・  
大学史研究会事務局員一覧

## 会員ニュース

### 異動のあった会員

長谷部 圭彦 会員

新所属 : 早稲田大学イスラーム地域研究機構 (招聘研究員)

原 圭寛 会員

新所属 : 弘前学院大学文学部英語・英米文学科 (専任講師)

藤岡 真樹 会員

新所属 : 京都大学国際高等教育院 (非常勤講師)

### <異動に伴う会員情報更新の届出をお願いいたします>

所属や住所等に変更のある会員は、事務局までご一報ください。ホームページ掲載の「事務局連絡先」フォーム、あるいは年会費払込票 (郵便口座) の「通信欄」を利用することも可能です。

(会員情報担当 : 浅沼薫奈)

## 第 38 回大学史研究セミナー参加記

原圭寛 (弘前学院大学)

初めて私が参加したセミナーは 2010 年に京都で開催されました第 33 回でして、そこから 1 年おきくらいで参加しております。今回のセミナーでは、プレ企画ではありますが、5 年目にして初めて発表のお時間を頂戴いたしました。研究紹介程度の簡単な発表ではありましたが、やはり皆さまご専門が近だけあって、他の学会発表では味わうことのできない大変貴重な時間となりました。

その後の本大会 1 日目のシンポジウムは中山茂先生の追悼企画として行われました。先生とは直接お会いする機会が無いままとなってしまいましたが、先生の研究の軌跡について改めて勉強し直すことができました。

2 日目の自由研究発表では 6 つの発表がありましたが、特に私が専門としているアメリカ高等教育史について、坂本辰朗先生の「アメリカ合衆国におけるナショナル・リサーチ・フェロー制度の創設」と福留東土先生の「ローレンス・ローウェルによるハーバード・カレッジ改革」の発表を拝聴できたことで、大変勉強になりました。

またその後に行われたキャンパス・ツアーでは、南山大学の歴史ある建造物の数々を解説付きで見ることができ、大変興味深いものとなりました。至る所にキリスト教の意匠が施されているキャンパスで、何気なく見る分には気付かない部分も多々あったかと存じます。今回の大会では、大会校の五島敦子先生をはじめ、事務局の先生方には大変お世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。次回のセミナーも楽しみにしております。

山本尚史（長崎女子短期大学）

大学史研究セミナーは、毎年充実した議論がなされ、かつ会員同士の交流も活発なことは言うまでもないですが、南山大学で開催された第38回大会では、「若手研究者の集い」というユニークな企画も開催されました。同時開催されたキャンパスツアーでは、南山大学の美しさを感じるとともに、意外な高低差を楽しみました。日ごろ大学史の話しで盛り上がることの少ない私にとっては、名古屋に着く前も、そして名古屋を発つときも、心踊るセミナーでした。

幸いにも「若手研究者の集い」では発表の機会を頂きました。拙いものになりましたが、2年連続して大学史研究会で発表できたことは、大変光栄なことでした。そして、4名の大学史研究者と話しができたことは、素直に楽しい時間でした。この集いのなかで、特に大学経営の観点から見ておられた戸村理事会員の発表は、会計面や雇用面での精細な議論がなされ、とても刺激を受けました。同時に、前任地の九州大学大学文書館で大学史史料に触れていた私は、改めて大学史研究における大学アーカイブズの機能と史料の整理・保存・公開という研究基盤の重要性を感じました。

また、自由研究発表で特に印象深かったのは、坂本辰朗会員の「アメリカ合衆国におけるナショナル・リサーチ・フェロー制度の創設」でした。戦時下の大学史研究に携わる私にとって、国家による研究体制の構築は重要な関心事でした。

そしてシンポジウムでは、中山茂先生追悼企画が行われましたが、私が初めて中山先生をお見かけしたのは中央大学でのセミナーでした。ネルソン先生にご質問されるのを拝見し、そのスマートさに圧倒されたのを覚えています。直接お言葉を交わすことはありませんでしたが、今回の企画を通して、先生が歩んで来られた研究者としての道に触れることができました。

充実したセミナーを企画・開催して下さった諸先生方に御礼申し上げますとともに、南山大学で温かくお迎えくださった、五島会員、林会員、そして学生スタッフの皆さまに厚く御礼申し上げます。

宮里翔大（桜美林大学大学院）

昨年11月21・22日に開催された「第38回大学史研究セミナー」に初めて参加させて頂くことができました。今までこのようなセミナーに参加したことがほとんど無かったうえに、修士1年で「研究（にも至らない）初心者」である私がプレ企画の「若手研究者の集い」で発表させて頂けるなど、とても有意義な2日間を過ごすことができましたと感じています。

そのなかでも、発表させて頂いた「若手研究者の集い」では、年齢が比較的近い先輩研究者の方々の発表やその後の意見交換等から、研究方法など直接研究に関するだけでなく、様々なことについて学ぶことができました。私の研究分野である学生に関する研究をされている若手研究者の方も多く、私自身の研究に対しても大変参考になったと感じています。また、私自身の（不十分な）研究についても、皆さまから様々なご指摘を頂くことができ、今後研究を行っていく上でご指摘頂いたことに十分に注意を払いながら研究に取り組みたいと感じています。

また、セミナーでは中山先生に関する講演や国内外様々な分野に関する発表を拝聴することができ、今まで私自身が触れる機会の無かった分野についても幅広く知ることができたと感じています。

この2日間で私自身が感じたことを一言でまとめると、教育学研究・高等教育研究を行ううえで、歴史的な観点を持って研究を行うことの重要性であったのではないかと思います。私は学士課程から教育学を専攻していたため、教育学において研究のアプローチの1つとして、歴史的アプローチの重要性について学んできましたが、その重要性を学士課程の時点では自ら感じることはほとんどありませんでした。しかし、今回のセミナーを通じて歴史的ア

アプローチを用いた研究の重要性を感じたとともに、それ以外のアプローチで研究を行う際にも歴史的な視点を持って研究を行うことが必要不可欠であると感じました。今後、様々な形で研究を行っていくうえで、今回感じたことを常に意識しながら研究に取り組みたいと感じています。

最後に、大学史セミナーに参加させて頂いたこと、また若手研究者の集いで発表させて頂いたことに深く感謝するとともに、運営に携われた先生方に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 2016 年度会費納入のお願い

今年度の年会費納入についてお願いのご連絡を申し上げます。大学史研究会の実収入は、会員各位からの年会費に大きくよっております。昨年度の年会費納入率は、現時点で 85%と過去数年に比べ改善しており、会員の皆様の円滑な研究会運営へのご協力に感謝申し上げます。引き続き、大学史研究会の発展と円滑な運営のため、会員各位のご理解ご協力をお願い申し上げます。年会費の納入の詳細につきましては、同封の納入依頼通知をご覧ください。

年会費は 5,000 円です。なお、大学院等在学あるいは日本学術振興会特別研究員の各位には、「院生・学生会費」として 3,000 円が適用されております。また、過年度分年会費未納の会員には、未納年度と本年度会費分を含めた金額総計を通知しております。年会費を 3 ヶ年度分以上滞納されている会員には、研究会の継続参加のご意志を年会費納入によって確認できるまでは、大学史研究会からの諸連絡、「研究通信」、「大学史研究」（紀要）等の発送の停止が決定しております。該当する会員へのご連絡通知には、これに関する事項が記載されておりますのでご留意願います。なお、本通知依頼発送と入れ違いに年会費を納入いただきました場合には、何卒ご容赦のほどお願い申し上げます。

— 年会費納入払込先 —

郵便振替口座：大学史研究会 口座番号 00120-3-47583

または

銀行口座：大学史研究会 三井住友銀行 池袋東口支店（店番 671）  
普通預金（口座番号 3456109）

（会計担当：山崎慎一）

## 会員新刊ニュース

寺崎昌男『大学自らの総合力 II—大学再生への構想力』東信堂、2015 年 11 月。

寺崎昌男・西山伸・湯川次義（学校沿革史研究部会）『学校沿革史の研究 大学編 2 大学類型別比較分析』野間教育研究所、2016 年 2 月刊行。

## 退会者の報告

2016 年 3 月末をもって下記の方が退会されました。本会の活動にご協力賜りまして、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

杉浦 忠夫 会員

鈴木 秀幸 会員

## 『大学史研究』編集委員会からのお知らせ

編集が遅れております『大学史研究』は、今回の中山先生追悼企画に関連した原稿を掲載したうえで、今回の刊行を目指しております。投稿自体は引き続きお待ちしておりますので、事務局紀要担当 (daishi@home.nifty.jp) までお知らせください。

(紀要担当：岡田大士)

## 事務局からのお知らせ

熊本県を中心に発生した地震によってご家族を含め被災された方に、心からお見舞い申し上げます。さまざまな報道のなかで、被災者でもあるはずの現地の大学生がボランティア活動に積極的に取り組んでいる姿に胸をうたれました。阪神大震災から 21 年、東日本大震災から 5 年経過いたしました。ボランティア元年といわれた 1995 年、わずかながら学生として震災ボランティアを経験した者として感慨深い思いでおります。

南山大学での大学史セミナーが無事終了し、企画の司会をさせていただいたものとしてほっとしております。人文系では「40代でも若手」とよく言いますが、土曜に開催された若手セミナーにおいては文字通り大学院在学中の研究者が集まり、意欲的な研究発表が行われました。そして彼ら若手の研究者に対する研究発表の場がもっとあってもいいのではないかと考えております。セミナーでの総会の際にも発言させていただきましたが、何か若手研究者の発表活動の場を広げるような支援ができないか、事務局を中心に検討してまいりますので、アドバイスをいただけましたらお願いいたします。

(事務局代表：岡田大士)

## 編集後記

本号の発行は、3 月末日を予定しておりましたが、諸般の事情により 4 月末日となりましたこと、お詫び申し上げます。

(通信担当：長谷部圭彦)

『大学史研究通信』第 85 号の編集は、事務局・長谷部圭彦が担当いたしました。

連絡先：hasebekiyohiko@hotmail.com

『大学史研究通信』第 86 号は、2016 年 8 月 31 日発行予定です。

### 大学史研究会事務局

<事務局連絡先>

〒192-0393 東京都八王子市東中野 742-1

中央大学法学部 研究室受付 岡田大士気付 大学史研究会

Tel&Fax: 042-674-3151 E-mail: daishi@home.nifty.jp

ホームページ <http://daigakushi.jp/>

事務局へのお問い合わせは、なるべく下記代表 E メールアドレスまでお願い致します

E-mail: jshshe@daigakushi.jp

### 大学史研究会事務局員 (五十音順)

浅沼 薫奈 (大東文化大学)

井上 美香子 (九州大学百年史編集室)

岡田 大士 (中央大学)

五島 敦子 (南山大学短期大学部)

長谷部 圭彦 (早稲田大学)

深野 政之 (大阪府立大学)

山崎 慎一 (桜美林大学)

山本 尚史 (長崎女子短期大学)